



1 年間弁護士として働いて

会員 吉岡 美紀

1 1 年間弁護士として働いた感想

私が弁護士として仕事を始めて、早くも1年が過ぎた。本来であれば、74期が1月に入所して、自分も先輩になるはずだが、新型コロナの影響で、執筆時には未だ一番下っ端である。

私は、企業法務系の事務所で働いており、事務所の同期弁護士が全部で42人いる。入所前は、「こんな私でついていけるのか」「同期と仲良くなれるのか」「企業法務なんて修習でやっていないんだから、全然想像がつかない」等と不安でいっぱいであった。

入所してからは、正直に申し上げると、何もかもが初めてで、会議でも先輩弁護士の会話についていけず、予想以上に大変であった。また弁護士の仕事は想像以上に幅広いと感じた。

先輩弁護士、同期、事務所スタッフの方々の助けがあり、この1年間過ごすことができたように思う。1人で何でもできるレベルには全然達していないものの、この1年間実務を経験し、色々なことに揉まれて、少しずつ自分が成長していているのは感じている。

また、事務所の同期には、恵まれたのではないだろうか。楽しいことやつらいことがあったらすぐに共有できる上、共に大変な時期を乗り切ると、お互いに絆が強くなるように思う。同期は「同志」、「宝」だ。同期とのつながりは特に大事にしていきたいと思っている。

2 所属会派の執行部での活動

新たな出会いは、事務所の人達とだけではなかつ

た。正直に申し上げると、自分が弁護士になって会派活動をすることになるとは入所前は想像していなかったが、ありがたいことに、事務所内の先輩弁護士から声をかけていただき、1年目ながら所属会派の執行部を担当させていただいた。

当然ながら、所属会派がどのような会派で、どのような活動をしているのかも分からないまま執行部として活動することになったわけだが、これにより、横のつながりだけではなく、縦のつながりも増やすことができた。所属会派では、毎年新人弁護士がテーマ発表をする機会があるのだが、そこでも他事務所の弁護士と接する機会があり、貴重な経験となった。

3 新人弁護士として日々心掛けていること

弁護士は、想像以上に忙しいと、この1年間で実感した。そのため、永く仕事を続けていく上では、健康と体力は非常に重要であると考えている。健康維持の観点から、休日はできる限り体を動かすようにしており、平日も1時間に1回程度は席を離れ、事務所内を歩くように日々心掛けている。

4 今後の目標

この春から、74期の後輩が入ってくる。先輩として、教えられることは少ないと思うが、後輩が入ってきてでも恥ずかしくないように日々勉強をしていきたいと思う。

また、将来的には留学に行きたいと思っているため、事務所内では、積極的に英語案件に携わり、語学の勉強は続けていきたいと思っている。